



大樋焼

歴史と特色

大樋焼陶瓷

寛文6年(1666年)に加賀藩5代藩主前田綱紀が京都より千仙叟宗室を招いた際、同行した土師[はじ]長左衛門が、金沢の大樋村に楽焼の窯を開いたのが始まりで以後、前田家の御用窯として栄えた。明治維新と第二次世界大戦で大きな影響を受け衰退していたが、生活の安定や茶道の普及で復興した。

初代長左衛門が楽茶碗の黒と赤を禁じられたため工夫して鉛色を創案したと言われ、雪国にふさわしい暖かい味がある。

土作りから本焼きまで手作りの一貫作業であり、素朴で暖かい味があり、茶陶を中心に生産されている。

历史和特色

1666年加賀藩第5代藩主从京都聘请来千仙叟宗室，与其同行的陶工长左卫门开始建窑，大樋烧陶瓷由此而兴起。因禁止使用黑色和红色乐茶碗，第一代长左卫门从而创新制出了米黄色。其特征朴素而带有温暖的色调。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	抹茶碗、水指、菓子鉢、酒器(抹茶碗、水壶、糕点钵、酒器)
主な生産者(主要生产者)	十代大樋長左衛門(十代大樋长左卫门) 〒920-0911 金沢市橋場町2-17(金泽市桥场町2-17) TEL (076) 221-2397 大樋勘兵衛(大樋勘兵卫) 〒920-0918 金沢市尾山町2-8(金泽市尾山町2-8) TEL (076) 231-0306



歴史と特色

加賀竿

加賀竿

加賀藩の奨励する鮎釣りにおいて、当初釣人が竿をつくっていたが、元禄の頃より竿師が現れ継竿を作るようになった。明治時代にはいと庶民にも魚釣りが解放され、釣竿製作も盛んになり、鮎の高級竿だけでなく、大衆向きの鯛竿の生産も順調に伸びた。第2次大戦後、グラスファイバー製釣竿の普及や海釣りへの移行で大打撃をうけたが、本物を求める釣人の強い支持を得て、需要は安定している。

釣竿は全天候に対して耐久性があり、軽く扱い易さが望まれるため、2年生の竹を高熱加工して強靱さをもたせ、さらに漆塗で補強と装飾性を加味し、長期使用に耐えられる堅牢さを持った美術工芸品として定評がある。

历史和特色

在加賀，当初因武士们喜欢钓香鱼而制出了高级鱼竿。后来，面向大众的低价鲫鱼竿也有所增产。这种质轻的鱼竿是将生长了两年的竹子通过高温加工使其更加强韧，并用涂漆再次加强韧性和装饰性，第二次世界大战后，虽然玻璃纤维制的鱼竿非常普及，但加賀竿依然具有相当的人气。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	友釣竿、へら鯛釣竿(香鱼钓竿、鲤鱼钓竿)
主な生産者(主要生产者)	目細八郎兵衛商店(目细八郎兵卫商店) 〒920-0854 金沢市安江町11-35(金泽市安江町11-35) TEL (076) 231-6371